岩手県の土地改良

水土里ネット いわて

令和6年度「農村景観」写真コンクール
風景部門　「野球しようぜ！」

No 601　2026.10



CONTENTS

・農を守り、地方を創る予算の確保に向けて　……2
・農林水産省等へ農業農村整備の着実な推進を要請 ……3
・岩手県へ農業農村整備の着実な推進を要請 ……4
・岩手県議会農業農村整備推進議員クラブ
現地研修会を開催……5
・農業農村整備予算の確保を要請 ……6～7
・令和9年度農業農村整備事業関係予算
概算要求の概要……8～9
・令和8年度水土里ネット職員研修会を開催 ……10
・令和8年度換地計画実務研修会を開催……11
・令和8年度換地委員等実務研修会を開催 ……11
・Wild Cup2026に出場 ……12
・令和8年度水土里ネット若手職員研修会を開催……12
・農業用ため池での転落事故ゼロに向けて　……13
・農業者等が行う簡易な基盤整備に関する研修会……13
・次代を担う農業農村工学技術者の育成……14
・令和8年度土地改良関係団体若手職員基礎研修……14
・令和8年度女性活躍推進会議が開催 ……15
・令和8年度 全国土地改良大会
奈良大会のお知らせ……16
・令和9年度 全国土地改良大会
岩手大会のお知らせ……17
・GREEN×EXPO2027 開催のご案内 ……18
・農家負担金軽減支援対策事業のご案内 ……19
・令和8年度絵画・写真コンクール応募締切迫る！ …20
・「水土里ネットいわての概要 2026」のご案内　……20
・土地改良区だより第15 回 水土里ネット山王海 …. 21
・編集後記

農を守り、地方を創る予算の確保に向けて

―『農業農村整備の集い』が開催―

６月15日、全国土地改良事業団体連合会（二階俊博 会長）は、東京都千代田区砂防会館別館「シェーンバッハ・サボー」において、『農業農村整備の集い』を開催し、210名の国会議員臨席のもと、全国から1,200名を超える出席者が集結した。

はじめに、主催者挨拶として二階会長が、「皆様のご協力により、令和８年度土地改良関係予算は前年度を大幅に上回る6,942億円と、農業の構造転換に向けた別枠予算を確保できた。我々土地改良団体は本予算を活用して農業・農村の発展に積極的に取り組み、『闘う土地改良』の下、一致団結してさらなる発展を目指していく。」と述べた。



【挨拶する二階会長】

来賓祝辞では、鈴木憲和 農林水産大臣(当時)が「次世代へ農地を引き継ごうと奮闘する生産者や土地改良区の皆さんの思いに必ず応えるため、今後も必要な予算総額をしっかりと確保し、『闘う土地改良』を掲げる皆様と共に農林水産省が先頭に立って戦っていく。」と述べた。



【祝辞を述べる鈴木農林水産大臣】

また、鈴木俊一 自由民主党幹事長が、「農業農村整備は食料安全保障を支える農業生産基盤を守り、地域の活力を維持する上で極めて重要な取り組みである。農地の大区画化や水利施設の更新など、現場の課題にしっかりと応えていくことが、今後の農業構造転換を支える基盤になる。土地改良予算の確保と制度の充実に引き続き力を尽くすとともに、来年岩手県で開催される全国土地改良大会が更なる発展の契機となることを期待している。」と述べた。



【祝辞を述べる鈴木自由民主党幹事長】

次に、『食料安全保障の確保に欠かせない土地改良事業をスピード感を持って推進できるよう、当初及び補正予算と別枠を含めた必要な予算を確保すること』など全８項目の要請案文が全会一致で採択された。

最後に、全国水土里ネット女性の会の発声で参加者全員によるガンバロウ三唱を行い、幕を閉じた。



【ガンバロウ三唱をする参加者】

農林水産省等へ農業農村整備の着実な推進を要請

―令和９年度の農業農村整備関係予算の確保等を要請―

本会は、岩手県及び岩手県大区画化等推進協議会と合同で、８月５日～６日、農林水産省と総務省、国会議員に対し、農業農村整備事業の着実な推進のため下記について要請を行った。



【山下農林水産副大臣と要請者】

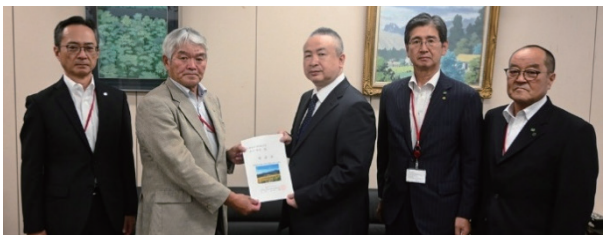
農林水産省では、６日に、山下雄平 農林水産副大臣(当時)及び石川英一 農村振興局次長に面会し、岩手県の畠山英勝 農村整備担当技監及び星一樹 農村計画課総括課長、岩手県大区画化等推進協議会の千葉匡 副会長(本会専務理事)及び会員である岩手県法人協会の照井勝也 会長（㈱西部開発農産代表取締役社長）とともに、本会の髙橋隆 会長、久保田泰輝、千田公喜 両副会長が要請を行った。

山下農林水産副大臣(当時)からは、「日本の食を支えている岩手のみなさんが意欲を持って取り組める体制づくりは非常に重要。予算確保や財政措置に係る調整に努めていくので、引き続き支援をお願いしたい」との回答があった。



【永井東北農政局長と要請者】

東北農政局では、５日に、永井春信農政局長、細井和夫 農政局次長及び鷲野健二農村振興部長に面会し、要請を行った。



【出口自治財政局長と要請者】

総務省では、６日に、出口和弘 自治財政局長に面会し、要請を行った。



【藤原衆議院議員と要請者】

国会議員には、６日に、藤原崇 衆議院議員、米内紘正 衆議院議員及び進藤金日子参議院議員(秘書)に面会し、要請を行った。

要請項目

1　農業生産基盤の整備や農村地域の強靭化の着実な推進が図られるよう、農業農村整備事業関係の令和８年度補正予算及び令和９年度当初予算について、別枠予算を含め、安定的かつ十分に確保すること。

2　農業農村整備事業関係の補正予算を当初予算化する場合は、地方公共団体の実負担額が補正予算と同程度となるよう、十分な地方財政措置を講じること。

3　土地改良区の運営基盤強化や地域の農業生産基盤の保全に向け、省エネ等による施設の維持管理コストの低減、水土里ビジョンの策定・実践が、計画的に推進されるよう支援すること。

岩手県へ農業農村整備の着実な推進を要請

―「いわて農業生産強化ビジョン」に示す 農業生産の増大や人材の確保・育成などの実現に向けて―

本会は５月 29 日、髙橋隆 会長、久保田泰輝、千田公喜 両副会長、千葉匡 専務理事が、岩手県に対し「農業農村整備の着実な推進に関する要請」として、令和９年度当初予算の確保等について要請を行った。



【照井農林水産部長と要請者】

照井富也 農林水産部長からは、要請項目の１について、以下のとおり回答いただいた。

・農業農村整備の重要性は十分に承知している。令和８年度の県予算は、ほ場整備事業を中心に、令和７年度を上回る予算を措置したところ。今後も、国の政策と連動させながら、必要な予算を確保し、地域の要望に応えられるよう取り組んでいくので、引き続き、御支援・御協力をお願いしたい。

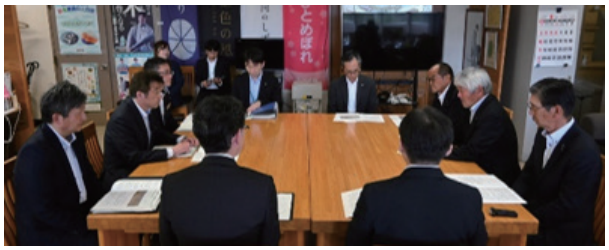
また、畠山英勝 農村整備担当技監からは、要請項目の２と３について、以下のとおり回答いただいた。

・ほ場整備については、予算の重点化や整備コストの縮減を図りながら、地域のニーズに応じた基盤整備に計画的に取り組む。

・電気料金の高騰対策については、国などの動向を踏まえながら検討を進める。

・省エネ等による維持管理コストの低減については、岩手県農業水利施設ＧＸ推進研究会の活動を通じて引き続き取り組む。

・水土里ビジョンの策定・実践については、今年度見直し予定の「岩手県土地改良区運営基盤強化方針」に水土里ビジョンの取組を位置付け、農業水利施設の適切な保全管理が図られるよう支援する。



【要請状況】

要請項目

1　令和９年度農業農村整備事業関係予算について、県予算を十分に確保すること。
　また、農業構造転換集中対策における土地改良の一層の推進を図るため、県予算の確保及び実施体制の充実を図ること。

2　ほ場整備の新規地区の計画的な採択に向け、調査計画を引き続き推進するとともに、農業農村整備事業コスト縮減計画に基づく対策を推進しながら、継続地区が早期に完了するよう事業進捗を一層図ること。

3　土地改良区の運営基盤強化や地域の農業水利施設の保全に向け、電力料金の高騰に対する必要な対策を継続するほか、省エネ等による維持管理コストの低減、水土里ビジョンの策定・実践が、計画的に推進されるよう支援すること。

岩手県議会農業農村整備推進議員クラブ現地研修会を実施

―宮城県内の土地改良事業地区を視察―

7月27日～28日の2日間にわたり、岩手県議会農業農村整備推進議員クラブ（髙橋はじめ会長）は、本県の農業農村整備事業の推進に資することを目的に、宮城県における「土地改良を契機とした農村地域の振興事例」について視察を実施した。



【参加者の集合写真】

初日は、栗原市金田地区を訪問し、有限会社川口グリーンセンターの白鳥正文代表取締役から「中山間地域における持続可能な農業経営の取組」をテーマに説明を受けた。同地区では、地域農業の維持を目指し、独自の販路拡大や海外輸出、米粉パン工房や直売施設の運営など、多角的な事業展開に加え、担い手確保に向けた取組について説明を受けた後、併設する直売施設を見学した。

続いて、角田市尾袋川東地区を訪問し、株式会社飛躍Showの遠藤浩司代表取締役及びあぶくま川水系角田地区土地改良区の面川義明理事長らから、「スマート農業の取組と次世代の農業担い手の育成」をテーマに説明を受けた。同地区では、ほ場の大区画化を契機として、自動運転トラクタや水管理省力化システムなどのスマート農業技術を導入し、省力化や低コスト化を図る取組や、次世代の農業担い手の育成に向けた取組について説明を受けた。

2日目は、大崎市にて世界農業遺産「大崎耕土」及び世界かんがい施設遺産「内川」について、大崎市農業遺産未来戦略室の車田敦副参事兼室長及び水土里ネット大崎の佐藤拓也事業課長から説明を受けた。持続可能な水田農業を支える伝統的な水管理システムや、世界農業遺産への登録を契機に、土地改良施設などの農業資源を活用し、歴史・文化・観光など幅広い分野で地域振興につなげている取組について説明を受けた。

続いて、遠田郡美里町の青生・青生2期地区を訪問し、みらいす青生株式会社の宍戸健代表取締役から「基盤整備を契機に日本を代表する営農組織へ」をテーマに説明を受けた。同地区では、全ほ場に地下水位制御システム「FOEAS」を導入し、2期3作のブロックローテーションを可能にしているほか、乾田化によってトウモロコシやニンジン、長ネギなどの高収益作物の安定栽培につなげている。また、これらの農産物を活用した産直施設の運営など、先進的な取組について説明を受けた。

参加した会員は、農業農村整備が単なる生産条件の改善にとどまらず、スマート農業の推進や高収益作物の導入を支える重要な基盤であることを再認識するとともに、今後の本県農業の振興に向け、農業農村整備事業を一層推進することの重要性を確認した。



【青生・青生2期地区の現地視察の様子】

農業農村整備予算の確保を要請

―東北・北海道土地連連絡協議会がそれぞれ要請―

東北・北海道土地改良事業団体連合会連絡協議会（髙橋隆 会長）は、６月16日、農業農村整備関係予算の確保と東日本大震災からの再生・復興に関する要請活動を行った。

農林水産省では山本啓介 農林水産大臣政務官(当時)、財務省では宮下賢章 主計局主計官（農林水産係担当）(当時)、復興庁では田所嘉徳 復興副大臣(当時)に面会し要請を行った。



【山本農林水産大臣政務官と要請者】

山本農林水産大臣政務官(当時)からは、「農業農村整備は、食料生産だけでなく、水利施設や農地の整備を通じて災害を防ぎ、人々が暮らす環境を形成する重要な役割を担っていると認識している。引き続き、皆様方の御指導をいただきながら、予算の確保に努めるとともに、農家が意欲的に農業生産に取り組めるような政策を推進していく。」とコメントをいただいた。



【田所復興副大臣と要請者】



【宮下主計局主計官と要請者】

また、自由民主党本部において、鈴木俊一 幹事長及び小野寺五典 税制調査会長に面会し要請を行った。



【自民党 鈴木幹事長及び
小野寺税制調査会長と要請者】

鈴木幹事長からは、「土地改良（農業農村整備）事業は、予算に見合った効果が必ず表れる事業の１つ。農業構造転換集中対策や国土強靭化等の別枠予算と、本来の土地改良事業予算を組み合わせながら、資材費や人件費の高騰に対応した予算を確保し、しっかりと前に進めていきたい。」とコメントをいただいた。

小野寺税制調査会長からは、「再生産可能な米価を維持することが、土地改良事業を支え、農業生産に取り組む方々にとって重要な課題と認識している。引き続き頑張っていくので、御支援・御協力をお願いしたい。」とコメントをいただいた。

要請項目

≪農業農村整備関係≫

1　土地改良長期計画の実現に向けた農業農村整備関連予算の確保について

食料安全保障の確保や多面的機能の発揮を実現するため、農地の集積・集約化やスマート農業の推進に向けた農地の大区画化を始めとする基盤整備、農業水利施設の戦略的な保全管理等の着実な推進が図られるよう、必要な予算総額について、農業構造転換集中対策に係る経費や物価高騰対策も含め安定的かつ十分に確保すること。

2　農業・農村地域の国土強靭化に向けた支援について

農村地域の国土強靭化のため、老朽化したため池を含む農業水利施設の更新・長寿命化対策及び豪雨・耐震化対策をより一層推進するとともに、第１次国土強靭化実施中期計画の実現に関する予算を十分確保すること。

3　近年の大規模災害からの復旧・復興に係る支援について

頻発化している地震や豪雨等による大規模災害からの復旧・復興や、再度災害防止の取組を早急に進めること。

4　土地改良区の運営体制等の強化に向けた支援について

(1) 自然的、社会的、経済的な情勢変化を踏まえ、高い公共性・公益性を有する土地改良施設の維持管理に対する支援を充実させること。

(2) ICT、AI 等を活用して、土地改良施設の管理の省力化・高度化等を図る取組を推進するとともに、中小規模の土地改良区を対象とした合併や再編などに対する支援を推進すること。

(3) 土地改良区の運営に参画する人材の多様化を図るため、男女共同参画に向けた取組への支援を充実させること。

(4) 水土里ビジョンの策定・実現に当たり、基盤整備や施設の更新当について継続的かつ安定的な財政支援を行うこと。

≪東日本大震災関係≫

1　農業・農村再生に必要な予算の確保について

東日本大震災により被災した地域の農業・農村再生に不可欠な復興事業について、第３期復興・創生期間における事業の実施に必要となる予算を確保すること。

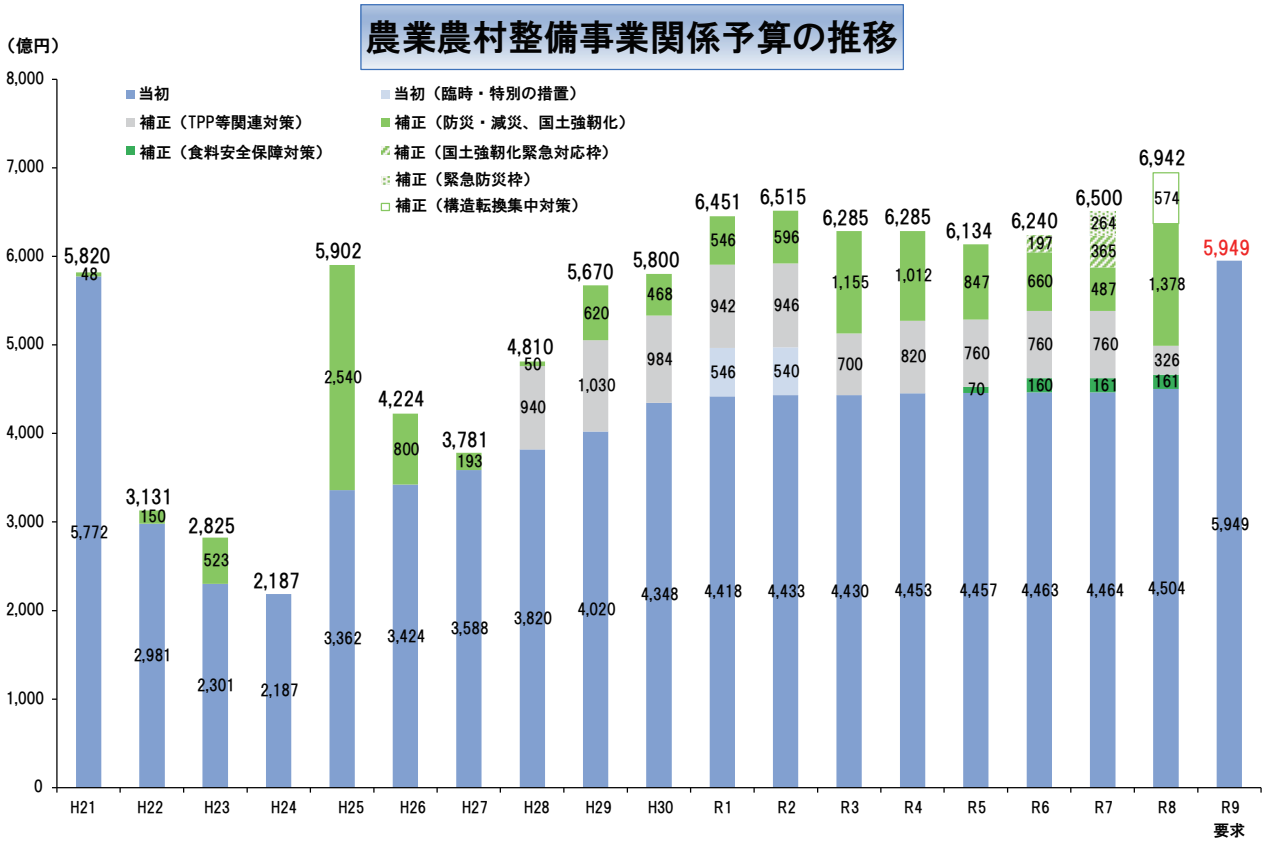
令和9年度農業農村整備事業関係予算　概算要求の概要

農林水産省は８月 31 日、令和９年度農林水産予算概算要求を公表。農業の構造転換や国土強靭化等を図るための農業農村整備を計画的に推進するため、農業農村整備事業（公共）、農業農村整備関連事業（非公共）及び農山漁村地域整備交付金（農業農村整備分）を合わせて、5,949 億円（対前年度比 132%）を要求した。

令和９年度予算概算要求　　（単位：億円）

区　分	R8 当初予算	R9 概算要求	前年度比
農業農村整備事業（公共）	3,365	4,375	130%
農業農村整備関連事業（非公共） （農地耕作条件改善事業 大区画化等加速化支援事業 畑作等促進整備事業 農業水路等長寿命化・防災減災事業 農業生産基盤情報通信環境整備事業 農山漁村振興交付金）	554	873	158%
農山漁村地域整備交付金（公共）（農業農村整備分）	584	701	120%
計	4,504	5,949	132%

（注）計数は四捨五入によっているので、端数において合計とは一致しないものがある。



※「農業構造転換集中対策」に係る経費、「食料安全保障強化政策大綱」を踏まえた経費、「第一次国土強靭化実施中期計画」に係る経費及び「総合的なTPP等関連政策大綱」を踏まえた経費については、事項要求として予算編成過程で検討。

令和９年度農村振興局予算概算要求の重点事項（抜粋）

《農業生産基盤の整備・保全》

①　農業農村整備事業＜公共＞（４，３７５億円）

農地の大区画化、中山間地域のきめ細かな整備、水田の汎用化・畑地化、農業水利施設の計画的な更新・長寿命化、省エネ化・再エネ利用、省力化等による適切な保全管理、ため池の防災・減災対策、田んぼダムの取組拡大等流域治水対策、農道、集落排水施設の整備等を推進

②　農地耕作条件改善事業（２８５億円）

農地中間管理機構による農地の集約化、麦・大豆や高収益作物への転換を推進するため、機構による担い手への農地の集約化が行われる地域等において、農地の区画拡大や排水改良等を支援

③　大区画化等加速化支援事業（６７億円）

法人等の農業者が自ら施工することによる農地の大区画化等を支援

④　農業水路等長寿命化・防災減災事業（４３０億円）

農業生産活動の基盤となる農業水利施設の機能の安定的な発揮や、生産性の向上を図るなど、機動的・効率的な長寿命化・防災減災対策を支援

⑤　畑作等促進整備事業（３５億円）

畑作物、園芸作物が生産される地域を対象に、暗渠排水等の基盤整備をきめ細かく機動的に支援

⑥　農業生産基盤情報通信環境整備事業（１０億円）

スマート農業の実装等に必要な光ファイバ、無線基地局、ＩＣＴ機器等の情報通信環境の整備を支援

⑦　農山漁村地域整備交付金＜公共＞（９１５億円の内数）

地方が地域の自主性と創意工夫を活かしつつ実施する農林水産業の基盤整備や農山漁村の防災・減災対策を支援

令和8年度水土里ネット職員研修会を開催

―土地改良区の組織強化に向けて―

本会は、８月26日～27日にかけ、盛岡市繋「ホテル紫苑」において、県内土地改良区職員34名の出席のもと、『令和８年度水土里ネット職員研修会』を開催した。

本研修会は、土地改良区の運営基盤の強化並びに職員の資質向上を図ることを目的として毎年度開催しているもの。

開会にあたり、本会千葉匡 専務理事が、「農業を取り巻く課題に対応するため、従来の整備に加え、簡易な整備による大区画化を加速させることが急務である。同時に、水土里ビジョンを通じた市町村との連携による組織強化も欠かせない。本研修では、そうした事業推進に加え、新たな時代の AI 活用や適切なカスハラ対策を学んでいただき、今後の業務運営の一助となることを祈念する。」と挨拶した。

参加者は、熱心に講義に耳を傾け、今後の土地改良事業の展開や新たな技術の活用、さらには適切な組織対応について理解を深めるとともに、今後の業務運営基盤強化に向け、思いを新たにしていた。



【研修の様子】



【講演する田中代表取締役】

令和8年度水土里ネット職員研修会

【令和8年8月 26 日(水) 13:30～17:00】

・「農業者等が行う簡易な基盤整備について～チャレンジ・簡易な基盤整備！より早く効果を実現するために！～」
　講　師　　岩手県農林水産部農村建設課　農地整備担当課長　筑後 裕士　氏

・「はじめての AI 研修会～AI って何? から理解・活用まで～」
　講　師　　株式会社 Badass　代表取締役　田中 裕也　氏

・「今後の土地改良の方向について」
　講　師　　都道府県土地改良事業団体連合会会長会議顧問・参議院議員 進藤 金日子　氏

【令和8年8月 27 日(木) 8:30～11:30】

・「カスタマーハラスメント対策研修」
　講　師　　株式会社トゥルース　前澤 暢子　氏

令和8年度換地計画実務研修会を開催

―土地改良換地士試験対策等内容を充実して２日間での開催―

本会は、６月 23 日～24 日の２日間、本会会議室において『令和８年度換地計画実務研修会』を開催し、県、市町村、土地改良区の職員約 70 名が受講した。

研修会では、盛岡地方法務局登記部門の小林敦 総括登記官から、相続等の登記義務化に至る背景や経過措置等について、同局の佐藤慎一 総務登記官からは、分筆登記申請の各種提出書類や境界立合い、民法改正などについて講義いただいた。

また、岩手県農林水産部農村計画課の志田有紀 主任からは、ほ場整備を事例に計画調査の進め方や営農計画実現に向けたフォローアップ等について講義いただいたほか、同部農村建設課の及川巧 主査からは、換地業務の一連の流れや事前確認、所有者不明農地の解消に向けた財産管理制度の活用について講義いただいた。

本会の菊池克祐 事業調整監兼大区画化支援室長は、県内の大区画化等加速化支援事業の取組状況や事業実施の流れ、換地業務担当者に期待される役割等について講義を行った。

２日目は、株式会社東北プランニングの田中館一人 盛岡営業所長より、土地改良換地士試験対策の講義が行われた。

２日間の研修では、活発な質疑があるなど、受講者は真剣な面持ちで受講していた。



【研修会の様子】

令和8年度換地委員等実務研修会を開催

―換地委員を巡る情勢に理解を深める―

本会は、７月 23 日～24 日の２日間、盛岡市総合プール研修室において、『令和８年度換地委員等実務研修会』を開催し、ほ場整備実施地区の換地委員や計画地区の推進委員、土地改良区の担当者など約 70 名が受講した。

研修会では、「農業農村整備事業の予算の状況について」と題して、岩手県農林水産部農村建設課の筑後裕士 農地整備担当課長から、国における農業農村整備関係の動向、本県の農業・農業農村整備の展開方向、県内の取組事例、農地の大区画化等の加速について講義いただいた。

先進地事例発表では、「武道地区の取組みについて」と題して、農事組合法人 農の未来武道の竹田浩久 代表による講演が行われ、法人化に向けた取組みや法人化後の展開、現在の課題についてご紹介いただいた。



【研修会の様子】



【説明する農の未来武道の竹田代表】

Wild Cup2026に出場

―県との合同チームが最優秀新人賞を受賞―

８月５日、岩手県水産会館において、岩手県の農林水産業の収益力向上や地域活性化に向けて、新たな施策アイデアを競い合う政策提案型調査研究コンテスト『Wild Cup 2026』が開催された。

本会からは、換地部換地課の大沼朋也課長補佐が岩手県農林水産部農村建設課・農村計画課等との合同チーム「チーム換地～カンチ～」として出場し、「換地 DX は突然に！」と題した発表を行った。

既存アプリを応用して換地原案のたたき台を自動生成し、換地委員の業務負担軽減と公平性・客観性の向上を図る仕組みを提案した。

審査の結果、同チームは見事「最優秀新人賞」を受賞した。換地業務における今後の DX 推進が期待される。



【表彰式の様子】

令和8年度水土里ネット若手職員研修会を開催

６月19日、本会は盛岡市「マリオス」において、県内土地改良区および土地連職員33名参加のもと、『令和８年度水土里ネット若手職員研修会』を開催した。

本研修会は、勤続10年未満の職員を対象に、職員の資質向上を図るとともに若手職員同士の交流を図ることを目的に開催したもので、今回で３回目となる。

講師に、パラレルクロスの須藤達 代表、西條ユキコ企画室の西條ユキコ 代表をお招きし、社会人としての基本やクレーム対応等に関する研修が実施された。

本研修で得た知見が、各職場で活かされ、組織全体の活性化や次世代を担う中核人材の育成につながることを期待する。



【参加者の集合写真】

令和8年度水土里ネット若手職員研修会
次　　第

【令和8年6月 19 日(金) 13:00～17:00】

・「職務の振り返り/自立型人材を目指して」
　講　師　　パラレルクロス　代表 須藤 達　氏
・「クレーム対応の基本」
　講　師　　西條ユキコ企画室　代表 西條 ユキコ　氏
・「施設管理におけるドローンの活用及び効果」
　講　師　　岩手県土地改良事業団体連合会 農村振興部 農村環境課　技師　波田野 岳空

農業用ため池での転落事故ゼロに向けて

―ため池転落事故防止に向けた研修会を開催―

7月3日、八幡平市西根地区市民センター及び高石野溜池において、岩手県ため池サポートセンター主催による『ため池転落事故防止に向けた研修会』が開催され、市町村、土地改良区等から約50名が参加した。

研修の前半では、市民センターにおいて一般社団法人水難学会の斎藤秀俊 理事（長岡技術科学大学大学院教授）より、「農作業時のため池転落の現状と一人でできる安全対策」と題して講義をいただき、ため池の草刈り作業中に発生する死亡事故の多さなどが紹介された。

後半は高石野溜池に移動し、同学会の安部淳理事による実演研修が行われた。スタントマンが実際にため池へ転落し、転落の対処法、救助方法のポイント、脱出器具等を使った這い上がり方などについて紹介した。

参加者は真剣な面持ちで説明に耳を傾けており、ため池の安全対策に対する関心の高さが伺えた。

岩手県ため池サポートセンターでは、引き続きため池の危険性の周知と、転落事故ゼロに向け、安全対策等に関する啓発活動に取り組んでいく。



【実演研修の様子】

農業者等が行う簡易な基盤整備に関する研修会

―チャレンジ・簡易な基盤整備！より早く効果を実現するために！―

7月31日、北上市のANAホリディ・イン岩手北上において、多様な主体の参画による農地の大区画化や農業水利施設の老朽化対策を促進することを目的とした標記研修会が開催された。

研修会は、岩手県と岩手県大区画化等推進協議会が主催したもので、関係機関・団体の職員や団体営事業の実施を希望する農業者等の総勢223名が参加。各種事業の活用に向けた留意事項や事業実施地区の事例等の情報共有を図った。また、農業者等を対象とした個別相談会を行い、大区画化等加速化支援事業の導入に向けた具体的な検討を行った。



【研修会の状況】

本会は、岩手県と協議会の事務局を担当しており、県内の大区画化等加速化支援事業の適正かつ円滑な実施に向けて、事業実施主体の取組を引き続き支援していく。

次代を担う農業農村工学技術者の育成

―岩手大学の学生が豊沢川地区の農業水利施設の役割を研修―

本会は６月１日、次代を担う若い世代に農業農村整備への理解を深めてもらうことを目的に『農業水利施設の現地研修会』を開催した。岩手大学農学部の濵上邦彦准教授、杉田早苗 准教授の引率のもと、食料生産環境学科３年次生21名が参加した。

研修会では、豊沢ダム、新田堰頭首工、宮野目揚水機場の３施設を巡った。岩手県県南広域振興局北上農村整備センターと豊沢川土地改良区の職員から案内を受け、農業水利施設の役割や維持管理の重要性について理解を深めた。

学生たちは、およそ45度の急な監査廊の階段に驚きつつダム管理の苦労を実感したほか、ゲートの自動制御やIoT技術を活用した水管理などの説明に強い関心を示し、熱心に耳を傾けていた。

現場での体験を通じ、将来の技術者としての知識を得る貴重な機会となった様子が伺えた。

本会では、今後も農業農村整備に携わる技術者育成の一助となる取組を行っていく。



【ダムの概要について説明を受ける学生】

令和8年度土地改良関係団体若手職員基礎研修

５月18日～20日の３日間、東京都の全国都市会館、ホテルルポール麹町において、全国土地改良事業団体連合会の主催による『令和８年度土地改良関係団体若手職員基礎研修』が開催された。本研修は若手職員を対象に、農業農村を取り巻く状況や事業等の基礎知識の習得を通じ、自身の役割への認識を深め、やりがいの創出や自己研鑽の意欲向上を図ることを目的として今回初めて開催されたものである。全国の都道府県土連や土地改良区等から約100名が参加した。

研修の前半は座学講義を中心に進行し、農政の展開方向や土地改良法の意義、予算確保の仕組み、換地や施設保全管理など、土地改良団体が担う多様な役割について幅広く学んだ。２日目には「農業農村の将来に向けて」をテーマとしたグループディスカッションが行われ、参加者は所属や地域の垣根を越えて活発な意見交換を行い、最終日にはその成果を発表した。

参加した職員は、次代の農業農村整備を担うための幅広い知識を習得するとともに、全国の同世代と交流を深める大変有意義な機会となった。今回の学びや人脈を、今後の土地改良事業の推進に大いに活かされることが期待される。



【研修会の様子】

令和8年度 女性活躍推進会議が開催

９月９日～10 日の２日間、岩手県盛岡市のアートホテル盛岡において、東北・北海道土地改良事業団体連合会連絡協議会（髙橋隆 会長）主催の『令和８年度 女性活躍推進会議』が開催された。本会議は、女性理事及び女性職員が農業・農村についての意識をより深め、相互ネットワークの構築と充実を図ることを目的とし、北海道・東北管内の水土里ネット関係者約 90 名が出席した。



【参加者の集合写真】

初日の会議では、主催者を代表して髙橋会長が挨拶行い、続いて進藤優貴子 令夫人（進藤金日子 顧問夫人）より来賓挨拶を頂戴した。その後、全国土地改良事業団体連合会土地改良広報センターの長山政道所長より『これからの土地改良区運営に求められるもの』と題した講義が行われた。続いて、都道府県土地改良事業団体連合会会長会議顧問の進藤金日子 参議院議員がオンラインにより、『食育の重要性と土地改良』と題した基調講演が行われた。

その後、『土地改良区の今後について考える』をテーマにグループ討論が行われ、参加者は理事と職員それぞれのグループに分かれ、各地域が抱える実情や課題などについて活発に意見を交わした。異なる地域の同じ職種の参加者同士がお互いの問題意識を共有出来たことで非常に活発な情報交換が行われ、大いに意識を高め合う場となった。最後の全体発表では代表グループから意見が発表され、長山所長から総括をいただいた。



【進藤令夫人による来賓挨拶】



【説明する遠藤工務課長兼換地課長】

２日目は現地視察が行われ、日本最大級の規模を誇る「一関遊水地」について、照井土地改良区の遠藤工務課長兼換地課長から説明いただいた。その後、「北上川学習交流館あいぽーと」にて職員からの説明を受けながら学習を深めた。

昼食には、一関市の名産である餅料理を味わい、地域に根付く餅文化に触れた。最後に世界遺産の「中尊寺」を訪問し、金色堂をはじめとする貴重な歴史的建造物やその保全の歩みについて学び、全行程を終了した。

本会議は、女性の視点を生かした土地改良区運営の重要性を再認識するとともに、今後の女性活躍推進に向けた大きな弾みとなる充実した２日間となった。



【一関遊水地展望台での集合写真】

令和8年度全国土地改良大会　奈良大会のお知らせ

令和 8 年度
第 48 回　全国土地改良大会
奈良大会

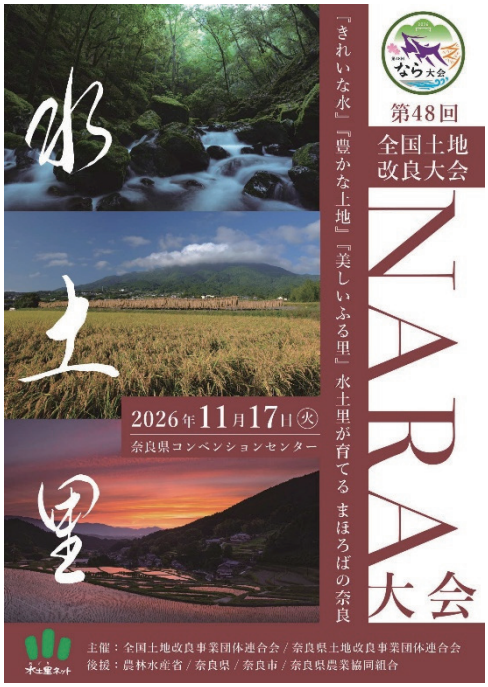


開催日

2026 年 11 月 17 日(火)

会　場

奈良県コンベンションセンター
（奈良市三条大路一丁目 691-1）



大会テーマ

『きれいな水』

『豊かな土地』

『美しいふる里』

水土里が育てる　まほろばの奈良



全国土地改良大会とは

全国土地改良大会は、「農業・農村の重要性」と、それを支える「農業農村整備事業の役割」を広くアピールするための式典です。

国の礎である農業・農村をさらに発展させ、次世代へ引き継ぐことを目的として、毎年会場を変えて開催され、農業農村整備に携わる全国の関係者が一堂に会します。

令和9年度全国土地改良大会　岩手大会のお知らせ

令和 9 年度
第 49 回　全国土地改良大会
岩手大会



第４９回岩手大会

開催日
2027 年9月 29 日(水)

会　場
岩手産業文化センター(ツガワ未来館アピオ)
(滝沢市砂込 389-20)







大会テーマ

水がめぐり　土が息づく　いわての里
つむごう感謝と農のこころ

開催概要

○主　催：全国土地改良事業団体連合会
　　岩手県土地改良事業団体連合会
○後　援：農林水産省、岩手県、盛岡市、滝沢市
○内　容：大会式典
　　併催行事（物産展、各種 PR 展示他）
　　交歓会(ホテルメトロポリタン盛岡 NEW WING)
　　事業視察

GREEN×EXPO2027　開催のご案内

地球と。咲きに行こう。

前売りチケット販売中

The Blooming Field of Planetary Citizens.



公式マスコットキャラクター
トゥンクトゥンク

©Expo 2027

前売りが断然、お得。
入場チケット販売開始
2026年3月19日(木)

前売りチケット	1日券	大人:4,900円	小人:1,400円
会期中販売チケット	1日券	大人:5,500円	小人:1,500円

開催期間：2027年3月19日(金) ― 9月26日(日)

開催地：神奈川県横浜市　(旧上瀬谷通信施設)

EXPO 2027 YOKOHAMA JAPAN

チケット購入はこちらから

公式販売Webサイト、または旅行代理店や各種プレイガイドから購入できます。

2027 チケット

※価格は全て日本円・税込みです。
（紙チケットを購入する場合は、別途100円(税込み)をいただく予定です。）
※3歳以下の方は無料となります。
※前売りチケットの販売は2027年3月18日までとなります。

主　催：公益社団法人 2027年国際園芸博覧会協会　https://expo2027yokohama.or.jp/

「農林水産省からのお知らせ」

農家負担金軽減支援対策事業のご案内

１．地域生産基盤保全強化支援事業【利子助成】

国の補助を受けて実施された土地改良事業等※の実施地区において、要件を満たすことが確実と見込まれる地区に対して、保全強化支援計画に従って、受益者負担金の償還利子相当額の5/6を限度として助成

※担い手育成農地集積事業（公庫の無利子貸付）の対象事業を除く。

採択要件（１～４のいずれかに該当）

１．目標年度までに、担い手農地利用集積率が以下のとおり増加すること。

採 択 時	目 標
80%未満	10ポイント以上増加※
80～90%未満	５ポイント増加
90～95%未満	95%以上
95～100%未満	シェア増加
100%	維持

※目標集積率60%未満は採択しない。

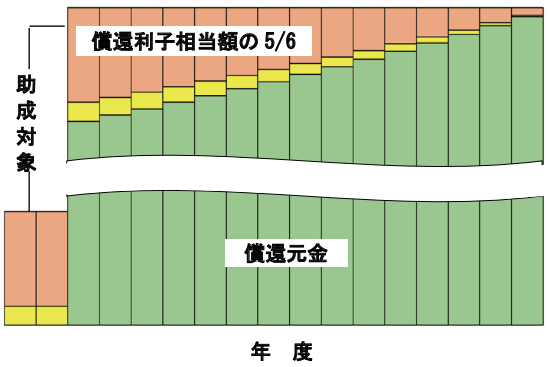
２．目標年度までに、高収益作物※の生産額がおおむね20%以上増加すること。

※ 高収益作物とは、主食用米と比べて面積当たりの収益性が高い作物（野菜、花き・花木、果樹など）をいう。

３．輸出事業計画の認定規程に基づき認定された輸出事業計画との連携が図られること。

４．先端的な技術を活用した生産方式との適合が図られること。

利子助成のイメージ



借入額が多ければ利子が大幅に軽減！

県営事業において、54百万円を６年間（合計3億24百万円）2.95%、17年償還（うち据置２年）で借り入れた場合の最終償還までの負担額

償還利子額	101百万円
△利子助成額	84百万円
実質利子負担額	**17百万円**

２．農地有効利用推進支援事業【利子助成】

農地耕作条件改善事業を実施し、担い手への農地利用集積率が８割以上となる地区に対して、農地利用推進計画に従って利子助成

採 択 時	目 標
80%未満	80%以上
80～100%未満	シェア増加
100%	維持

※採択時の集積率 80%以上の地区が対象に追加

（１）受益者負担金の償還利子相当額の5/6を限度として助成〔事業費助成型〕

（２）農地中間管理機構が農地の出し手（所有者）に対する賃料の一括前払に必要な借入資金に係る償還利子相当額を助成〔一括前払助成型〕

なお、災害時に利用できる**災害被災地域土地改良負担金償還助成事業【利子助成】**もあります。

お問い合わせは岩手県土地改良事業団体連合会 管理指導課（TEL 019-631-3202）まで。

令和8年度絵画・写真コンクール応募締切迫る！

―芸術の秋、あなたの作品をお待ちしています―





応募締切　**令和８年11月６日(金)**

○ 主　催　：岩手県土地改良事業団体連合会（愛称：水土里ネットいわて）
○ 共　催　：岩手県農業農村整備事業推進協議会
○ 後　援　：岩手県、岩手県教育委員会、岩手日報社
○お問合せ　：岩手県土地改良事業団体連合会
総務管理部管理指導課　TEL/019-631-3202 FAX/019-631-3260
Mail　s-kanri@iwatochi.com

「水土里ネットいわての概要2026」のご案内

本会では、業務内容および組織体制をご紹介する「水土里ネットいわての概要 2026」を作成しました。

本会ホームページに公開しておりますので、業務の参考にご覧ください。

（本会ホームページ）
https://www.iwatochi.com/



【「水土里ネットいわての概要 2026」表紙】

土地改良区だより

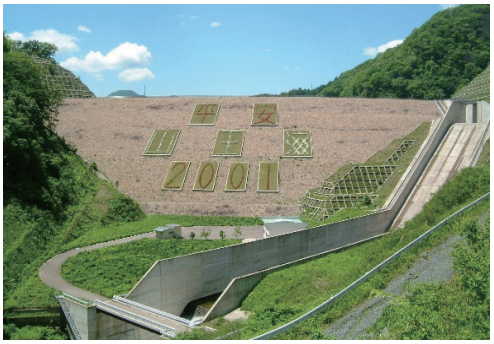
第15回　水土里ネット山王海（山王海土地改良区）




【大沼理事長(前列右から４番目)と役職員】

本土地改良区は、岩手県のほぼ中央に位置し、北上川水系「滝名川」及び「葛丸川」の両河川によって形成された扇状地に広がる、紫波郡紫波町、矢巾町、花巻市石鳥谷町にまたがる県下でも有数の穀倉地帯です。水稲を中心に、水田の畑利用による小麦、そば、大豆、野菜や飼料作物を組み合わせた農業経営が展開されており、特に紫波町は日本有数のもち米産地となっています。

古くから水田開発が行われ、江戸時代には両河川に多数の堰が設けられました。しかし、水田面積に比べ水源となる流域面積が少なく、旱魃が起きると壮絶な水争いが繰り返されていました。大正１３年の大旱魃を契機にダム建設の機運が高まり、昭和２７年に東洋一のアースダムとして山王海ダムが完成し、同年７月に「山王海土地改良区」が設立されました。平成に入り葛丸ダムも完成し、現在は全国でも珍しい「親子ダム」として限られた流域の水を最大限有効に活用しています。



【山王海ダム】


【用水管理センター】

当区は国営・県営土地改良事業、ほ場整備事業など様々な事業を行ってきており、令和６年度より新たに国営かんがい排水事業「山王海葛丸農業水利事業」が着工しました。本事業では老朽化施設の更新・改修、親子ダムの特性を活かした洪水調整機能の強化、小水力発電施設の新設、水需要の変化に対応するための調整池の整備を予定しています。

また、快適な地域づくりのためアドプト活動を実施するほか、ＮＰＯ法人と共催で「湖と森のふれあい研修」を開催し、ダムの持つ多面的な役割や森の大切さを一般の方々に知っていただく活動にも努めております。

令和８年度役員改選では新たに女性理事が加わりました。新たな視点や感性を取り入れ、当区の信条であります「豊かな水を求めて」を念頭に、今後も農業水利施設の保全管理と用水の安定供給に役職員一体となり邁進していく所存であります。

水土里ネット山王海（山王海土地改良区）
【理事長】大沼　義広
【所在地】〒028-3441　岩手県紫波郡紫波町上平沢字河原田 15 番地
【連絡先】TEL：019－673－7311　FAX：019－673－7360
【受益面積】3,775ha **【組合員】**2,104 名 **【理事】**8 名 **【監事】**3 名 **【職員】**17 名

編集後記

今年は全国的に大雨による被害が相次ぎ、自然の猛威を実感する年となりました。被害に遭われた皆様には、心よりお見舞い申し上げます。

度重なる大雨の中、農地や水利施設の保全・管理にご尽力された皆様のご苦労は計り知れません。こうした事態を通じ、米作りに欠かせない農地と水を守る私たちの役割の重大さを改めて実感しています。

厳しい環境を乗り越え、無事に収穫の秋を迎えられた自然の恵みに深く感謝いたします。

さて、本誌は今号から「601号」として新たな一歩を踏み出しました。これからも皆様のお役に立てる誌面づくりに努めてまいります。

今月号も最後までお読みいただき、ありがとうございました。

次号もどうぞお楽しみに。

（編集幹事）

発行所　岩手県土地改良事業団体連合会

〒０２０－０８６６　盛岡市本宮二丁目１０番１号
ＴＥＬ　０１９－６３１－３２００
ＦＡＸ　０１９－６３１－３２６０
ｈｔｔｐｓ://www.ｉｗａｔｏｃｈｉ.ｃｏｍ

編集発行人　千葉　匡